学習材「ふるさとのだいち」（２０２３年３月２日完成）

この、ふるさと続本、「ふるさとのだいち」は、「地域と地域は、大地の営みを通して、繋がっている」ということを、 子どもたちと「色」を通して解き明かしていく学習材として作成した。

この学習材は、入門教材「ふるさとのたからもの」、探究教材「ふるさとのふしぎ」、実践記録「ふるさとのいろあそび」に続く、「色」と「ふるさと」、「家族ぐるみ」と「地域ぐるみ」をテーマとした学校や地域に向けた続本である。

QR コードで、研究会ホームページ「地域の色・自分の色博物館にようこそ」と繋ぐことにより、学習コンテンツに動画を加えた。

また、実践校の鶴見小学校と安岐中央小学校の学年全員に配布し、「12.『ふるさとのだいち』・新たに生まれた不思議を伝えよう」という欄に、子どもたちが、「交流してみて、新たに生まれた不思議を、「色」や「絵」や「言葉」で表すという取り組みも行った。

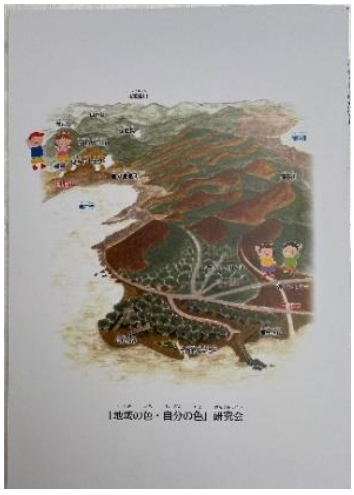
さらに、この学習材「ふるさとのだいち」は、これまでの３つの「ふるさと読本」とともに、県立図書館をはじめ、別府市と国東市の市立図書館や教育委員会、幼稚園、小中学校に置き、研究会ホームページ「地域の色・自分の色博物館」に原稿を公開して、多くの方々にご覧いただけるようにした。

1.学習材「ふるさとのだいち」の構成

はじめに

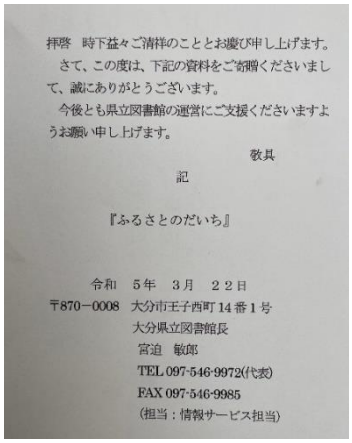
1. 磁石にくっつく黒い砂ってなに？
2. 「黒い砂」が、「刀」になるの？
3. シチトウイってなに？
4. 緑色のシチトウイは、どうして、青緑色に変るの？
5. シチトウイを育ててみよう！
6. なぜ、毎年秋になると、木の葉やお米は、緑色が黄色や赤になるの？
7. なぜ、「国東」は、世界農業遺産になったの？
8. なぜ、「国東」は、お寺やお祭りが多いの？
9. 「別府」にも、お宮やお祭りがあるよ！
10. わかったことを伝えよう！
    (1) 学校 こども「色」博物館
    (2) ふるさとの垣根を超えた交流授業
    (3) ふるさと こども「色」博物館
11. ふるさとの未来を担う子どもたちへ
12. 「ふるさとのだいち」・新たに生まれた不思議を伝えよう

おわりに



2.配布先

①県立図書館、
②県立病院 図書コーナー
③別府市教育委員会
（市立図書館、市立幼稚園、市立小学校、市立中学校）
④国東市教育委員会((国見図書館、くにさき図書館、武蔵図書館、安岐図書館))
⑤実践校(別府市立鶴見小学校、国東市立安岐中央小学校
⑥協力施設(血の池地獄、弥生のムラ（タタラ研究会)、両子寺等)
⑦京都大学地球熱学研究施設
⑧くにさき七島藺振興会
⑨国東半島宇佐地域世界農業遺産推進協議会
⑩こども環境学会、⑪協力農家
⑫学習院大学
⑬その他の協力者

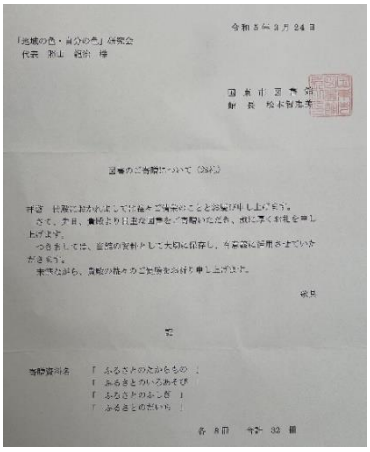

拝啓　時下益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。
さて、この度は、下記の資料をご寄贈くださいまして、誠にありがとうございます。
今後とも県立図書館の運営にご支援くださいますようお願い申し上げます。

敬具

記

『ふるさとのだいち』

令和　5年　3月　22日
〒870－0008　大分市王子西町14番1号
大分県立図書館長
宮迫　敏郎
TEL 097-546-9972(代表)
FAX 097-546-9985
（担当：情報サービス担当）



別府市寺岡教育長と照山代表

3.書　評

①坪山明寛　清川診療所院長、元県立三重病院院長、前豊後大野市民病院院長）

“色”を基軸に別府の血の池地獄の赤泥から始まり砂鉄、たたら製鉄、国東の七島藺、葉の色の変化、農業・宗教文化と大地の持つエネルギーの繋がりが、論理的に面白く分かりやすく展開して非常に感激しました。
また子供たちの活動実践まで取り上げられており、子供だけでなく大人までも刺激をいただく構成になっており、一気呵成に読めました。
「色」というありふれた視点から眺めると、いつもは素通りする事象も深みのある世界が広がっていることを学べました。

②佐藤禎一　前大分県芸術文化スポーツ振興財団理事長(元ユネスコ大使)
ずいぶんシリーズも進んできて、関連書籍も含め、研究の蓄積がすすみましたこと、誠に大慶です。美術館活動と並行してこのような活動が形になっていくことは嬉しいことです。

③竹村惠二　京都大学名誉教授

みなさんの課題の継続と実践が実って、すばらしいですね。この回の「ふるさとのだいち」は、自然が持つ色を砂から植物への展開、別府の赤から始まる鉄の課題を国東半島海岸の砂鉄への地域性の展開、実践の場の広がりへの展開と大きな 3 つの展開の方向性が見られて、興味深い内容でした。「色から始まる」「大地からの気づき」の方向性を維持して、活動を継続することはたいへんなことですが、今後の展開を期待しています。

4.この活動の中で、子どもたちに生まれた「新たな不思議」

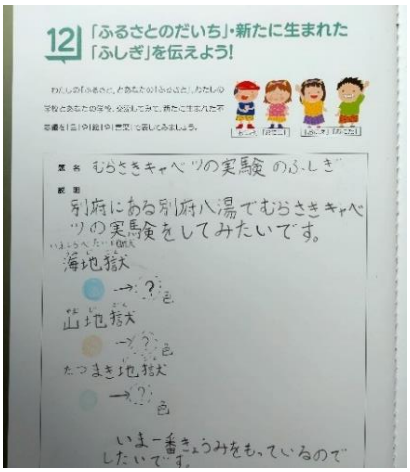
※学習材「ふるさとのだいち」の内容

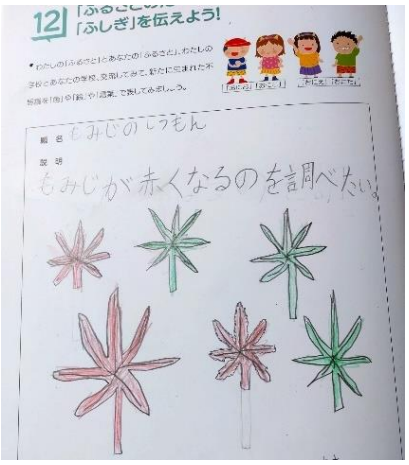
12.「ふるさとのだいち」新たに生まれた「ふしぎ」を伝えよう！ わたしの「ふるさと」とあなたの「ふるさと」、わたしの学校とあなたの学校、交流してみて、新たに生まれた不思議を「色」や「絵」や「言葉」で表してみましょう。

以下、子どもたちが記載した主なものを列挙した。

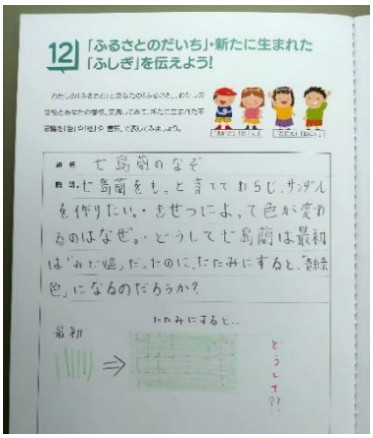
①鶴見小学校

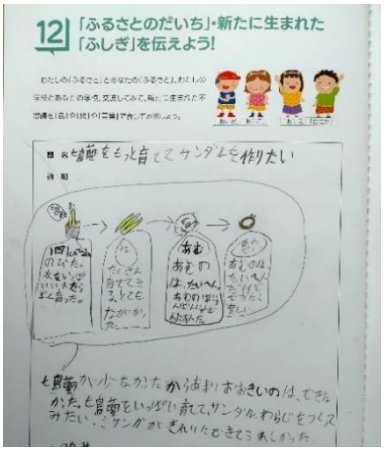
〇七島藺をもっと育てて、草鞋やサンダルを作りたい。モミジが何故赤くなるのかを調べたい。
〇別府にある別府八湯を紫キャベツの実験で調べてみたい。
〇紅葉は季節によって色が変わるというモミジの謎を調べてみたい。

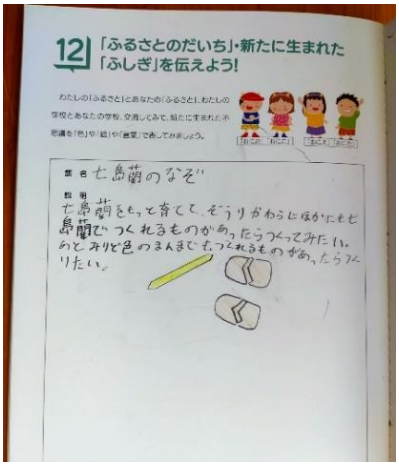




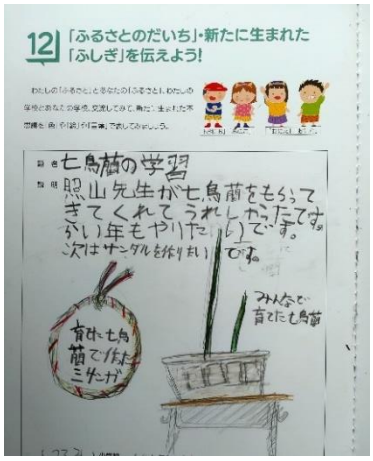
〇七島藺が季節によって色が変わるのはなぜ？七島藺は緑色なのに、畳になると青緑色になるの？
〇七島藺をもっと育てて、サンダルを作りたい。
〇来年もやりたい。今度はサンダルを作りたい。

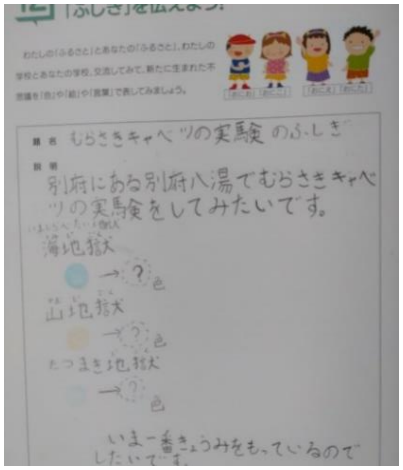


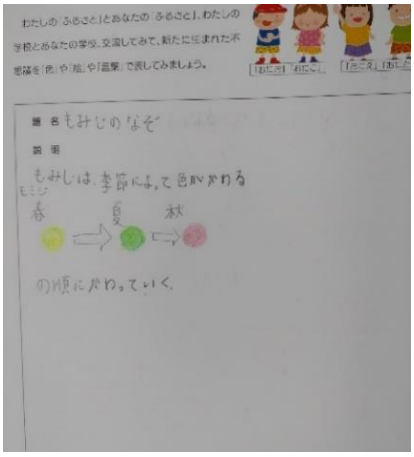




〇七島藺をもっと育てて、草鞋やサンダル、他にも七島藺でつくれるものを作りたい。
〇なぜ、もみじは季節によって色が変わるの？
〇別府にある別府八湯で紫キャベツの実験をしてみたいです。

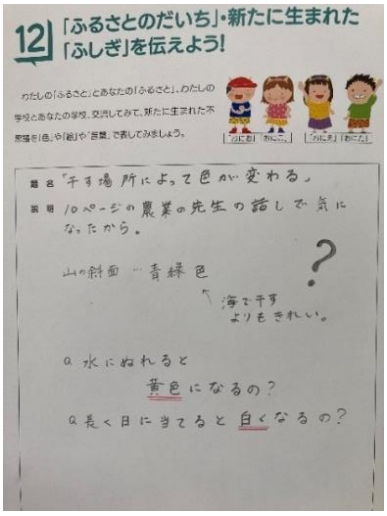


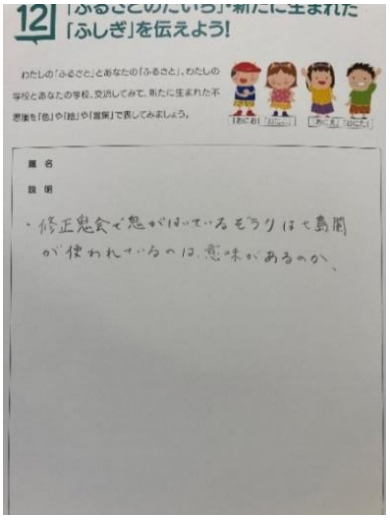


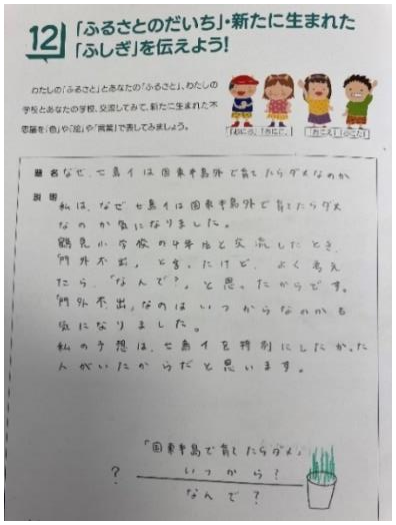


②安岐中央小学校

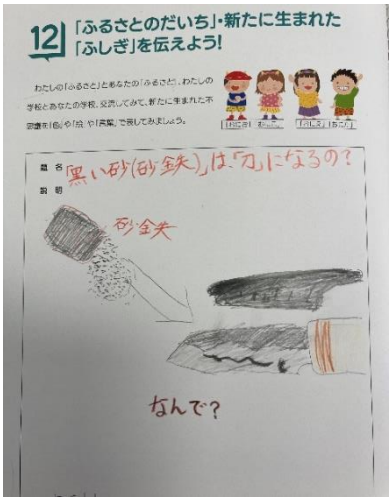
〇なぜ、シチトウイは、干す場所によって色が変わる？
〇修正鬼会の鬼が博草履はシチトウイが使われたのは意味があるのか？
〇なぜ、シチトウイは、国東半島外で育てたらダメなのか？

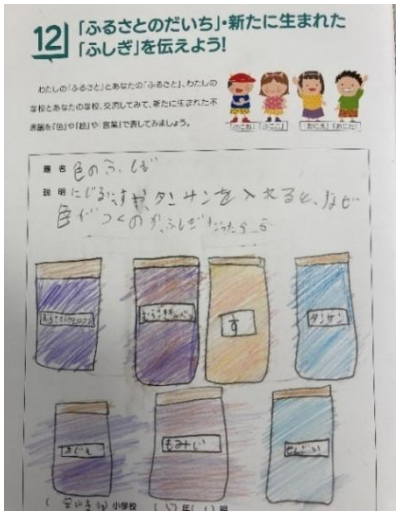


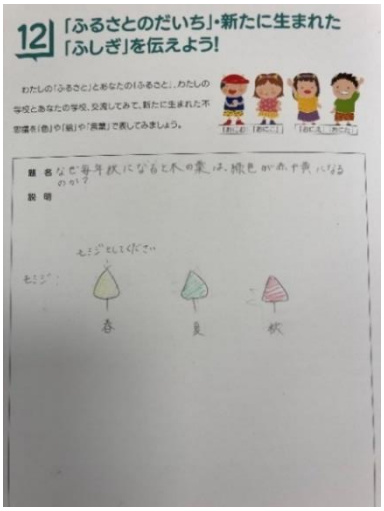
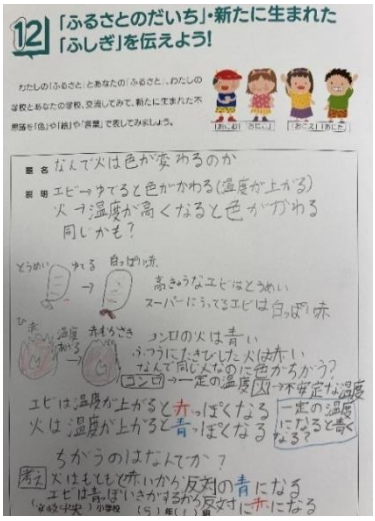
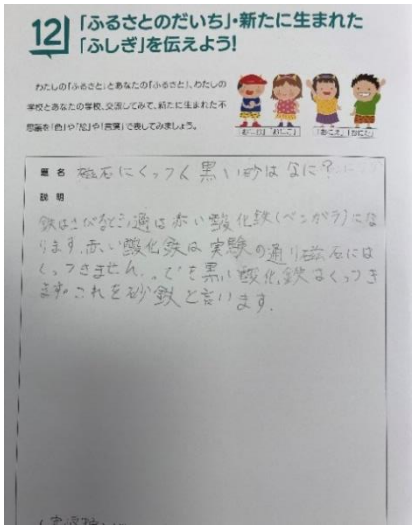
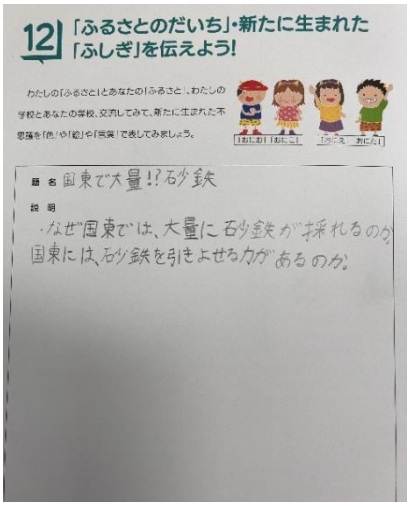
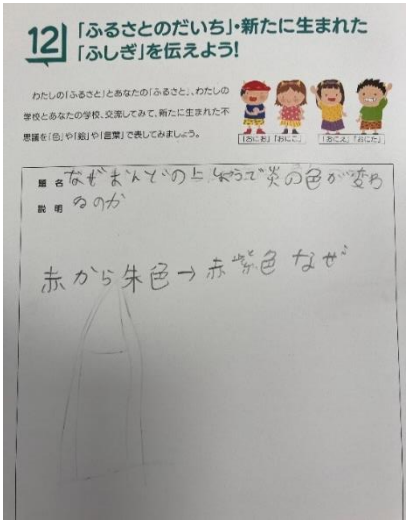




〇黒い砂鉄は、なぜ、刀になるの？
〇紅葉の煮汁に、炭酸を入れると、なぜ、色が変わるの？
〇なぜ、毎年秋になると、木の葉は、緑色から、黄色や赤になるの？







〇なぜ、火は色が変わるの？
〇磁石にくっつく黒い砂は何？
〇なぜ、国東で、砂鉄が多く取れるの？
〇なぜ、温度が上がると、炎の色が変わるの？